

2023年(令和5年)度

特定非営利活動法人 **子どもの森**

総 会 議 案 書



四季をまるごと体験ecoスクール（開校）

日 時：2023年4月23日（日）9時00分～

場 所：もり まなびや
森の学舎

総 会 次 第

1. 開会のことば
2. 議長選出
3. 議事録署名人任命
4. 資格審査報告
5. 報告事項
 - I. 2022年度活動経過報告
 - II. 、 、 活動決算報告
 - III. 監査報告
6. 議案
 - I. 2023年度活動方針（案）
 - II. 、 、 活動計画書（案）
 - III. 役員改選（案）
7. 議長降壇
8. 閉会のことば

お楽しみ会（11：00～）

総 会	日 時	場 所
設立総会	平成15年7月12日（土）13:00	子どもの森事務所
第2回通常総会	平成16年4月15日（木）10:30	子どもの森事務所
臨時総会（第3回）	平成16年11月19日（金）19:30	クリエイティブセンター門川
第4回通常総会	平成17年5月8日（日）10:00	門川町商工コミュニティセンター APIO
第5回通常総会	平成18年4月22日（土）18:00	門川町中央公民館
第6回通常総会	平成19年5月20日（日）16:00	ガーデンベルズ延岡エメラルドの間
第7回通常総会	平成20年5月17日（土）10:00	（仮称）森の学舎（旧西門川小学校松瀬分校）
第8回通常総会	平成21年4月25日（土）10:00	森の学舎
第9回通常総会	平成22年4月25日（日）10:00	森の学舎
臨時総会（第10回）	平成22年10月13日（水）19:30	クリエイティブセンター門川
第11回通常総会	平成23年4月24日（日）9:30	森の学舎
第12回通常総会	平成24年4月22日（日）9:30	森の学舎
第13回通常総会	平成25年5月6日（月）9:30	森の学舎
第14回通常総会	平成26年4月27日（日）9:30	森の学舎
第15回通常総会	平成27年4月29日（水/祝）9:30	森の学舎
第16回通常総会	2016年4月29日（金/祝）9:30	森の学舎
第17回通常総会	2017年4月29日（土/祝）9:30	森の学舎
第18回通常総会	2018(平成30)年4月22日（日）9:30	森の学舎
第19回通常総会	2019(平成31)年4月21日（日）9:30	森の学舎
第20回通常総会	2020(令和2)年4月26日（日）9:00	森の学舎
第21回通常総会	2021(令和3)年4月25日（日）9:00	森の学舎
臨時総会（第22回）	2021(令和3)年6月27日（日）13:00	森の学舎
第23回通常総会	2022(令和4)年4月24日（日）9:00	森の学舎

報告事項Ⅰ. 2022年度活動経過報告

1. 事業の成果

- 5 ① 環境プログラム（春を楽しもう）を開催することで、里山等の自然体験交流と自然環境を理解してもらおうための啓発活動ができた。
- ② 県北地域の親子が、10カ月間を通して自然環境を考える体験型環境学習（四季をまるごと体験ecoスクール）で、より深く多面的に自然環境を理解してもらおう啓発活動ができた。
- 10 ③ 耕作放棄の田んぼを復活させて田んぼの働きを戻し、里山の自然景観を守り、そして、大切なものがたくさんあり存在する魅力や価値を後世に繋ぐ活動ができた。
- ④ 環境文庫（森の学舎）にて、森の学舎の土日活用と環境問題全般を学習できる場を提供することができた。
- ⑤ Webページとfacebookにより、活動の情報発信と環境問題の啓発活動ができた。また、新たにInstagramの開設もおこなった。

2. 事業内容（特定非営利活動に係る事業）

（1）農林漁業などの産業体験や里山等の自然体験交流事業

① 四季をまるごと体験ecoスクール（第12期）

食卓に並ぶパンが、麦畑作り・小麦粉作り、塩・バター・酵母、パン焼きまでの一連の作業を通して、たくさんの人の手を経て作られるのを知り、収穫した麦から自分たちでパン焼きをすることで食べ物

20 25 大切さを実感してもらえたと思います。また、輸入食材でなく地域で作られる食材の方が地球環境に低負荷であることを知り、生き物調べ、河川清掃を通して、自然環境を大事にする心を、体験を通して学び、それぞれ自分ができるecoなことを考えてもらうことができました。

・実施場所：森の学舎、ecoスクール麦畑、森の学舎周辺、五十鈴川

・参加者：延べ14家族29人（内小学校3年生～6年生は15人）

・参加者学校：五十鈴小学校2名、門川小学校3人、草川小学校1人、美郷北義務教育学校1名、

30 （小学生のみ）大王谷学園初等部4人、日知屋東小学校1人、東郷学園1人、東小学校1人、南小学校1人、

・スタッフ：延べ7人

・後援：宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市教育委員会、日向市教育委員会、門川町教育委員会

・助成等：子どもゆめ基金

35 ・内容：地域の小学生とその保護者に対して、四季を通した自然体験や農業体験から自然の大切さを理解し将来の自然環境の守り手に育ってもらうために、10カ月の期間を通して同一参加者で下記のプログラムを実施した。

日時	参加者 (子ども)	スタッフ	プログラム
第1回(開校) 5月21日 9:30-15:30	24 (13)	5	開校式 ・学校名や学年、活動に参加した目的などの自己紹介。 ・初対面である参加者同士が早く仲良くなるためのネイチャーゲーム実施。 麦刈り ・前年度に種まきをして育った麦の刈りとり。 ・刈りとった麦の稲架かけ。
第2回	21 (11)	5	麦畑用堆肥づくり(ダンボールコンポスト) ・第6回におこなう麦畑作りで使用する堆肥作り。(ダンボールにピートモス等の基材を入れ、ゴミの減量化と堆肥としての食べ物の循

5月28日 9:30-16:00			環、家庭での堆肥の作りを学ぶ) 脱穀 ・第1回で刈りとった麦を足踏む式脱穀機で脱穀。 風選 ・脱穀した麦のもみ擦り。 ・唐箕を使って脱稈(だつぶ)。
第3回 6月18日 9:30-14:30	22 (12)	5	イカダづくり ・ペットボトルを活用して第4回の河川清掃で使用するイカダを制作。
第4回 8月6日 9:30-12:00	21 (11)	4	河川清掃 ・森の学舎の前を流れている五十鈴川で、第3回で制作したイカダに乗って川岸のゴミ拾い。 川の生き物調査 ・多くの種の命の大切さを学び豊かな自然環境が、動植物の食物連鎖や生態系に必要なものであることを学ぶための川虫や魚等の水生動物の観察。 ※新型コロナウイルス拡大(第7波)を考慮して午前中のみ開催
第5回 9月10日 9:30-14:30	13 (7)	6	森の学舎グラウンドと森の学舎周辺の土手や田んぼ畑での昆虫の観察と写真撮影 ・新開孝さんから昆虫の名前や生態等を聞きながら昆虫採集(当プログラムでは写真を撮ったら直ぐに自然に戻す)や昆虫観察(必要に応じては昆虫を詳しく観察できるレンズ付きガラス容器に入れ)と写真撮影。 ソーラークッキング ・太陽光を集めると、高温になること(目玉焼きで実験)を知り、CO ₂ の発生が0%であることに気づく。(CO ₂ の発生は、地球の温暖化防止には、重要なことを講話し、省エネの生活をするように意識させる)
第6回 11月19日 9:30-15:30	10 (5)	6	アイスブレーク ・雨脚が弱くなり畑の耕うんができるようになるまで、「9点通し」と「流れ星・月・木」を行った。「9点通し」では、自分の考えを打破する必要性、「流れ星・月・木」では、多様性を大事にする必要性を考えてもらった。そして、自然環境を大事にし守り育てる事へと話を繋げた。 畑の耕うん ・土起こし器を使って土をやわらかくしてドクダミの根や雑草を除去。 ドングリ工作 ・ドングリ工作や自然素材を使ったネイチャー工作。 ※午前中に雨が弱くなった時間帯(10:30~12:00)に畑の耕うんを実施し、雨が強い時間帯(9:30~10:30、13:00~15:30)は、代替プログラムとしてアイスブレークとドングリ工作を行った。 麦畑は、スタッフでダンボールコンポスト堆肥と灰、牛糞堆肥を耕うん機ですき込み麦播きの筋目印を設置した。13:00以降は、畑が雨を吸いこみぬかるんだ為、麦播きは断念し後日スタッフで麦播きを実施した。
第7回 12月17日 9:30-15:00	12 (6)	6	海の豊かさを守ろう ・海の汚染の8割は陸地からの影響であり、二酸化炭素や農業及び工業排水、未処理の下水や油、栄養塩類、堆積物、海洋ゴミなどが陸地から海に流れ込み、悪影響を与えていることを学習する。 簡易釜戸設置 ・ブロックを使って4カ所の釜戸の土台をグラウンドに作り、その上に簡易釜戸を設置。 塩作り ・海水を簡易釜戸で沸かして水分を蒸発させ塩を採取。 ・塩づくりの副産物であるにがりも採取。

			<ul style="list-style-type: none"> 採取した塩をフライパンで炒めて乾燥。 <p>麦踏み</p> <ul style="list-style-type: none"> 第6回で蒔いた麦芽が強い麦に育つための麦踏み。
<p>第8回</p> <p>2023年 1月21日 9:30-14:30</p>	<p>15 (8)</p>	6	<p>陸の豊かさも守ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 陸地の生物多様性があるから酵母菌が多種に存在することを切り口とし、生態系の保護と回復、砂漠化への対策と森林の保護などを学習する。 <p>酵母作り</p> <ul style="list-style-type: none"> パン作りで必要となる酵母の素（イチゴと砂糖と水）を仕込む。（食品瓶は自宅に持ち帰り自宅で酵母を育てる） <p>麦踏み</p> <ul style="list-style-type: none"> 第6回で蒔いた麦芽が強い麦に育つための麦踏みを行う。 <p>麦挽き</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2回で脱穀した麦を石臼で挽いて小麦粉にする。 <p>掃除</p> <ul style="list-style-type: none"> 石臼での麦挽きで汚れた室内と石臼の掃除。 <p>※森の学舎から日向・門川方面にむかう道路（道路が1本しかない）が工事により時間規制で、通れる時間が14:50から10分間しかなく次は16:00以降となることと予定していた小麦挽きも予定より早く終わったため1時間早く解散した。</p>
<p>第9回(閉校)</p> <p>2月18日 9:00-15:40</p>	<p>20 (10)</p>	6	<p>バター作り</p> <ul style="list-style-type: none"> 生クリームと牛乳で、パン生地に練りこむバターを作る。 <p>パン作り</p> <ul style="list-style-type: none"> 作った塩と挽いた小麦粉と作ったバターでパン生地作り。 1次発酵を済ませて、想いおもいの形にパン形成。 <p>パン焼き、感想文</p> <ul style="list-style-type: none"> パン焼きする順番に2次発酵してパン釜でパン焼き。 パン焼きの順番まで、感想文書き。 焼いたパンを試食。 <p>閉校式</p> <ul style="list-style-type: none"> 修了証の授与。

他に、スタッフが各回に実施する内容の準備や後片付け等を下記の通りおこなった。

日付	スタッフ	内容
5月5日	4	麦畑周辺の草刈り、防草のために米の藁を裁断して麦畑へ配敷
5月22日	3	脱穀機と千歯こきの準備、刈りとった麦の天日干し
6月11日	3	イカダ制作箇所（15箇所）に、コンパネ板（170cm×85cm×厚13mm）・線引用角材（2m）・鉛筆・消しゴム・メジャー・マジックのセット、イカダ作りの消耗品（紐やテープ等）の準備
6月26日	4	6月18日に参加できなかった3家族6人と途中早帰した1家族2人のイカダ作り
7月28日	3	イカダを降ろすため橋の欄干にロープ滑りを設置、イカダを持って登る道の草刈りと簡易階段の修理、スズメバチ巢の退治
10月22日	2	海水汲み
11月12日	5	畑全体の1/3に土起こし器による土起こしとドクダミの根除去、灰と牛糞を播いて耕うん機による耕うん、麦播きの筋の目印テープを張るための支柱作り
11月27日	2	麦播き
1月14日	4	石臼と石臼台の水洗い、石臼の目立てと廻し取っ手と臼上下をつなぐ芯棒作り
3月21日	2	鹿被害を防ぐため、防獣ライトの設置、麦畑の出入口への網設置、ラジオで毎夜音だしの三つを試行（現在もラジオの音だしは毎晩実施中）

② 休耕田復活プロジェクト

耕作放棄の田んぼを復活させて田んぼの働き（作物が育ちやすい土作り、水をきれいにする、上流の森林の豊かな資源の有効活用、周りの気温や湿度を守る、地下水の量を一定に保つ、洪水や土砂崩れを防ぐ、いろいろな生物が住む「家」の働き）を戻し、里山の自然景観を守り、存在する魅力や価値を後世に繋いで行く活動です。

松瀬地区の休耕田に、セイタカワダチソウ等の背の高い雑草が増殖しはじめ、著しく自然景観が悪くなってきて、イノシシ等の害獣の絶好の遊び場となっていました。2021年度に、この休耕田を元の田んぼに戻し無農薬で人の手作業による米作り体験の場（約300㎡）としました。前年と同様に参加者を募って、田植え（もち米）、草取り、稲刈り、脱穀、そして餅つきをして食べるまでの節目の作業を体験実施して行きました。翌年の田植えまでの期間はレンゲ畑とし、地元農家の方の指導と支援を受けて、延べ24人の参加者と延べ12人のボランティアスタッフで活動を進めました。

- ・実施場所：松瀬地区の耕作放棄の田んぼ
- ・助成等：かどがわスマイル応援事業

・実施日と内容

日付	参加者	ボランティア	内容
5月～6月		延べ9	・草刈り⇒地元協力農家による田おこし⇒前年よりも畔を拡張⇒地元協力農家による代かき⇒田んぼ全体を平らに均す
6月5日	19	10	・苗間隔30cm×30cmで、60行×29列で苗を後ろ向きで田植え ・最初の5列目までは、苗を1本植え、6列目から2本植え ・品種は、もち米「マンゲツモチ」 ・横山理事長による田んぼの話 ・取材：UMKスーパーニュース
6月25日		2	・畦の草刈り、草取り器材の準備（田車3台、除草器3個、簡易除草器5個）
6月26日	20	6	・横山理事長による春の田んぼの話 ・フィールドビンゴを田んぼで実施 ・田車、除草器、簡易除草器を使っての草取り
7月10日	16	5	・横山理事長による夏の田んぼの話 ・田んぼの環境調査（田んぼに生息している動物を網ですくって観察） ・田んぼの生えているコナギを調理（スタッフで天ぷら・和え物・炒め物・焼きそば）して、参加者とボランティアの全員で食べる ・田車、除草器、簡易除草器を使っての草取り
7月24日	4	4	・田んぼの環境調査（田んぼに生息している動物を網ですくって観察） ・手作業による草取り
10月1日		3	・はさ掛けの準備、田んぼ畔の草刈り
10月2日	20	10	・横山理事長による秋の田んぼの話 ・稲刈り⇒稲架（はさ）かけ
10月15日		6	・田んぼでの脱穀準備（日陰用のテントを張って、足踏み脱穀機の米飛び散り防止カバー設定）
10月16日	12	6	・横山理事長による冬の田んぼの話 ・脱穀機3台と唐箕を使っての脱穀
12月3日		4	・二基の石臼を木台に乗せてグラウンドに設置、二基の簡易釜戸をファイヤーサイドに設置、釜戸に鍋を2個設置、テーブル他準備
12月4日	21	8	・餅つきと餅まるめ後、海苔・きな粉・大根おろし・あずき・甘栗と醤油・蜂蜜・ポン酢をあわせて収穫祭

③ 椎茸ホダ木の管理（ほだ場作業）

2019年度の四季をまるごと体験e c oスクールでコマ打ち（植菌）した原木以外は、ほぼ朽ちてしまって少量の椎茸しか発生しませんでした。2022年度は、朽ちているほだ木の除去をしました。

④ 稲刈りのボランティア 実施日：10月23日（稲刈り）、30日（脱穀）

休耕田復活プロジェクトの指導をしてもらっている地元農家（新田さん）の田んぼの収穫前の稲が、台風14号の大雨で、五十鈴川氾濫で濁流被害にあい、稲刈り機械では、稲刈りができなくなりました。

収穫した米を全部持って帰って良いから、手鎌で稲刈りをしないかとお話がありました。早速、田んぼ復活プロジェクトとeecoスクールの参加者とそのスタッフに連絡をして、稲刈りをするにしました。田んぼ復活プロジェクトから8人、eecoスクールから3人、他一般3人、スタッフ6人が稲刈りと脱穀に参加しました。

収穫量は、籾付きで約45kgでした。スタッフ以外の参加者には、一人約2kgの籾付き米を分配しました。

(2) 中山間地の荒廃した里山の環境保全再生事業

① 子どもの森1号地（杉と広葉樹の混交林）

2006年3月に400本を植樹した子どもの森1号地は、苗木も大きくなり下草刈の必要がなくなり、センダンの樹高は3m以上になり、その他の樹木も人間の背丈よりも高くなっています。現在は、自然本来の再生能力に委ね人による手入れを行っていません。

② GOCANの森（門川高校演習林災害跡の再生）

門川高校生と協働して実施した森林の再生活動（2007年3月に植樹、2013年3月に補植樹）をした門川高校実習林の苗木が大きくなり下草刈の必要がなく、ケヤキの樹高は3m近くなり、ヤマザクラは花を咲かせています。現在は、子どもの森1号地と同様に自然本来の再生能力に委ね人による手入れを行っていません。

③ 妖精の森（放置竹林の広葉樹林への復元活動）

手入れがされず放置されている竹林（森の学舎裏の竹林）を、雑木林に再生し人や動植物にやさしい自然環境と水源かん養や災害の防止など森林の公益的機能の維持増進を図るために、2009年度から継続して竹の伐採を続けてきました。これまで伐採した竹林の面積は約0.2haを超え予定していた範囲の伐採は、2016年度に終了しています。2022年度は、3月4日に伐採跡地に生えていた竹の伐採を行いました。

④ お地蔵さんの森（森林と水辺の体験型環境学習の森づくり活動）

放置されている里山を整備して体験型環境学習の広場作りを、2019年から実施しています。森林の体験型環境学習のため広場を整備し、水辺の体験型環境学習で活用するために松瀬川（五十鈴川支流）への昇降道も整備しています。2022年度は、草刈りを計画していましたが、雨天により中止しました。

(3) 地域の自然環境などを理解してもらうための啓発活動

① 野草を活用した自然体験交流（春を楽しもう）

自然を親しみ、自然の豊かさ・大切さを学ぶ活動です。山菜・野草観察を食べる分だけ摘んで参加者の皆さんと一緒に調理していきます。自分の足元から春を感じ、自然環境を考えていきます。

野山に限らず身近なところにも食べられる野草が自生していることを知り、緊急時でも食料の確保ができることも体感します。

・活動の目的：人間を含む生き物すべてが自然の中で育まれているので、地球環境を大事にする気持ちを高めて欲しい。そのために、春になって野草の芽吹きに触れ自然環境に関心・興味を持ってもらうプログラムとして、野草の収穫と調理して食する活動を実施する。

・活動の成果：子どもたちとその保護者が、ふだんの生活では気づくことができない身近かな食べることができる野草の観察と調理して食するを通して、地球規模ではなく自分の足元にある自然の恩恵と大切さを実感できた。そして、自然環境を守るために必要な自分ができる

ことを考えるきっかけづくりができた。自然を大切に守ろうと思う心の芽生えは、子どもたちの健全育成に大きな影響をあたえることができた。

- ・実施日：2023年3月26日
- 5 ・参加者：子ども9人（内幼児4人）、保護者7人
- ・スタッフ：7人
- ・講師：成迫平五郎氏（宮崎県環境保全アドバイザー）
- ・後援：宮崎県、宮崎県教育委員会
- ・助成等：子どもゆめ基金
- 10 ・内容：野草の観察と収穫、野草調理（餃子、天ぷら、白和え、おひたし、ピザ）
- ・準備：（3月13日）会場になる教室の掃除、管理棟と教室棟の渡りの修理

（4）地場産業の振興、街づくり、人づくり

15 地域のサードプレイス（環境学習の教室、日常的に大人や子どもが集まる処、防災時の補助的な避難所、地域の農産物場販売所など多様な利用方法があると思われま

す）として、美郷町北郷黒木にある築

116年の古民家を再生し活用するための費用を調達するために、認定NPO法人の申請をしました。

20 この古民家は、柱や床などがシロアリ被害によって、家全体が歪んでいます。再生が可能なのかを業者による家屋調査を実施し、再生可能であるとの調査結果がでました。また、前住人がそのままに放置していた荷物や家具のかたづけと、朽ちて崩れていた納屋の撤去も終了しました。いよいよ本格的に古民家再生を開始できる状態になりました。

7月3日：古民家再生協会による家の痛み具合と資産価値の調査です。日本に数台しかない床下調査用ロボットを使って床下を調べていきました。束や大引きのシロアリ被害を酷く今すぐにも修理が必要だそうです。

25 8月20日：床下調査で指摘された最重要項目である床下のシロアリ被害ですぐできる事として、今以上酷くならないように、床下の湿気をできるだけ少なくするために、床を取り囲んである外壁トタンを撤去しました。

30 8月27日、28日：裏手にある崩れた納屋を撤去しました。屋根トタンを外し、棟木や母屋をチェーンソーで運び出せる大きさに切って取り除きました。2日間をかけて完全に撤去できました。

12月19日、1月7日：個人では廃棄物収集場に持ち込むことができない産業廃棄物を業者に依頼して撤去をおこないました。

（5）市民活動の活性化に関わる企画、コーディネート事業

35 宮崎県のご当地ヒーローである「ヒムカイザー」の映画撮影がオール門川ロケで進んでいます。企画会社の株式会社インパクトワークスから、森の学舎を舞台に撮影をしたいと連絡がありました。撮影で森の学舎を使用する場合は、有償で使用してもらいました。

ヒムカイザーの映画は、8月公開予定です。

40 （6）活動の情報発信・啓発のための事業

① SNSの運用

・実施時期：4月～2023年3月

45 ・概要：子どもの森のすべての活動と自然環境啓発等を、月平均3回（年計35回）のWebページ更新にて情報発信した。facebookへは、年間29回の投稿をおこなった。

2023年3月に、instagramを開設し4回の投稿をおこなった。

② 機関紙の発行

A4で12ページの子どもの森通信19号を8月に発行しました。

50

③ 案内チラシの作成

・実施時期：各プログラムの開催1カ月～2カ月前

・概要：宮崎県や宮崎県教育委員会等の後援をもらい、それぞれのプログラムの参加者募集チラシを作成した。主に県北の図書館や近隣のスーパー等においてもらった。また、Webページからもダウンロードできるようにした。他の参加者募集の方法として、facebookと地元新聞社（夕刊デイリー、宮崎日々新聞）への掲載をお願いした。

四季をまるごと体験e c oスクールの参加者募集チラシは、延岡市・日向市・門川町の教育委員会から後援をもらい、県北一円の小学校の3年生から6年生に、延岡市・日向市・門川町の教育委員会を經由して約7500部を配布した。

(7) その他目的を達成するために必要な事業

① 黄色いレシートキャンペーン（8月11日）参加者：横山理事長、横山純子理事、加納理事

イオン日向店にて、キャンペーンの普及発展と子どもの森のPRをおこなった。今回でキャンペーンの参加が10回目となりました。支援を続けてもらっている店舗への感謝と、お客様に黄色いレシートを子どもの森に投函してもらい、子どもの森の活動を地域に知ってもらうのが目的です。

レシート金額の1%相当額が、活動のために必要な消耗品などの商品がイオン・グループ店舗において寄贈されます。子どもの森は、2006年から17年間で、約127万円を寄贈してもらっています。イオンの黄色いレシートで、子どもの森の応援をしてくださっている皆様に感謝します。

② かまど小屋と風呂小屋の建て替え

宿泊型の環境学習や森づくり活動のために、杉間伐材と放置竹林の広葉樹林への復活活動で切り出した竹で制作したかまど小屋と風呂小屋が、老朽化して大変危険な状態となっているために建替えを行いました。

地面に埋め込んだ柱が腐り材の芯のみになり、材の芯もなくなり宙に浮いた状態になっている柱もありました。屋根板も風雨によって腐り穴が開き雨漏りが酷い状態になって、雨漏りが直接あたる垂木も腐っていました。近年は大型の台風が来なかったこともあり何とか小屋が倒れずに立っていましたが、使用するにはとても危険な状態であり倒壊の恐れもあるため全面的な改修である建て替えを行う必要がありました。新しく建てる小屋は、頑丈で耐久年数を長くするためにも業者に依頼することにしました。

7月末に業者による「かまど小屋」と「風呂小屋」が完成し、自前で実施する風呂小屋の壁を杉板で張り塗装しました。また、洗い場床の張り、雨樋と出入口扉の設置をおこないました。

参加者：延べ24人

助成：日本郵便年賀寄付金配分事業

実施日：（業者からの引き渡し後）8月12日～16日、18日、21日、2月11日、12日
2023年4月2日、10日

③ 森の学舎の整備

1) 森の学舎グラウンドと周辺の草刈り

5月4日、5日、7月16日：参加者＝延べ13人

2) 教室棟の大掃除

12月31日：参加者＝3人

3) 2号風呂小屋制作（柱立て⇒屋根張り⇒窓付け⇒壁張り⇒扉設置⇒煙突設置）

4/1、2、4、8、9、16、17、22、23、30、5/1、2、3：参加者＝延べ29人

④ 森の学舎の活用

1) 訪問者

年間に延べ56人の森の学舎への訪問者があり、横山理事長が、必要に応じて訪問者に子どもの森と森の学舎の説明をおこないました。少ない訪問者ではありましたが、子どもの森の理解を進めることができましたと思います。

2) 有償貸出

- ・ 8月6日に、3家族（8名）に森の学舎と五右衛門風呂を開放しました。
- ・ 2月23日、25日、26日、3月11日に、（株）インパクトワークスによる「ヒムカイザー」の映画撮影で、森の学舎とグラウンドを開放しました。撮影クルー・出演者・子役の保護者の延べ約125人が森の学舎に訪れました。

5

⑤ ビオトープ

ヘイケホテルが生息しており5月末になるとホテルが舞うのを見ることができました。地区の集会場の水タンクでオーバーフローした水を引いてきていますので、大雨が原因で水源からの水が止まり水が流れてこないことが数回ありました。その都度、水源を見に行ったり、地区の関係者の方に連絡をして、対処してきました。

10

3. 寄附金・助成金等

(1) 子どもゆめ基金（国立青少年教育振興機構）

15

- ① 四季をまるごと体験e c oスクール（第12期）の事業費590.8千円（ボランティア評価除く）に対して、参加費収入が145.0千円と455.8千円の助成を受ける予定です。
- ② 春を楽しもうの事業費141.5千円（ボランティア評価除く）に対して、参加費収入が12.0千円と138.0千円の助成を受ける予定です。

(2) かどがわスマイル応援事業

20

休耕田復活プロジェクトの事業費198.6千円（ボランティア評価除く）に対して、参加費収入が26.4千円と174.0千円の助成を受けました。

(3) 年賀寄付金による社会貢献事業

竈小屋と五右衛門風呂小屋の建替え事業費927.5千円（ボランティア評価益除く）に対して、791.3千円の助成を受けました。

25

(4) イオン黄色いレシートキャンペーン

黄色いレシートキャンペーンの投函箱を、マックスバリュー南延岡店とイオン日向店に設置していました。投函されたレシート金額の1%が団体に商品券で寄贈されます。2022年度は、51.1千円の商品券が寄贈されました。

(5) ろうきんNPO寄附

30

預金者が応援したいNPO法人へ、希望する金額を希望する日に、預金者に代わって普通預金口座から寄附先団体の口座に自動振替する制度で、1回の寄附額は100円以上（100円単位）です。3名の方から計10.4千円の寄附がありました。

(6) 他寄附

35

横山理事長の各プログラムでの人件費等（91.4千円）と、休耕田復活支援をしていただいた新田さんの支援謝金（30.0千円）の寄附がありました。

4. その他

(1) 森づくりボランティア協議会

40

横山理事長が、当会の理事に就任しています。横山理事長は、宮崎市内で開催される理事会に出席しています。

総会（6/19）には、横山理事長と鶴戸副理事長が出席しました。

川南町遊学の森樹木観察会（10/9）には、横山理事長が参加しました。チェンソー安全講習と椎茸栽培の原木伐採研修（11/13）と椎茸栽培の玉伐り・コマ打ち研修（3/12）には、横山理事長と横山理事が参加しました。

45

(2) 認定NPOの取得

多額の費用が必要となる活動の資金調達を目的としての認定NPOの取得について、2020年8月28日付けで認定NPOの取得が完了しました。認定有効期限は、令和7年8月27日までの5年間になります。

50

認定NPO法人に寄付をすると、寄付額が所得税の寄附金控除になりますので、寄付を集めやすい環境が整っています。

2022年度事業経過一覧

実施日		活動名	内容/備考
4月	1(金)~30(土)10日間	学舎整備	2号風呂建替え(他5/1,2,3)
	10(日)	黄色いシート贈呈式、監査	横山理事長、横山理事
	11(月)	理事会	
	24(日)	総会	
5月	4(水)~7(土)	森の学舎整備、田んぼPRO準備、ecoスクール準備	グランドの草刈り、畦の整備、ecoスクール麦畑の整備
	16(月)	理事会	
	21(土)	①ecoスクール	開校式、麦刈り
	22(日)	ecoスクール準備	②の準備
	28(土)	②ecoスクール	麦脱穀、堆肥作り
6月	4(土)	田んぼPRO準備	①の準備
	5(日)	①休耕田復活プロ	田植え
	11(土)	ecoスクール準備	③の準備
	18(土)	③ecoスクール	イカダづくり
	26(日)	②田んぼPRO	ネチャゲーム、草取り
7月	10(日)	③田んぼPRO	田んぼの環境調査、草取り
	16(土)	学舎整備	草刈り
	23(土)	ecoスクール準備	④の準備
	24(日)	(追)田んぼPRO	田んぼの環境調査、草取り
8月	6(土)	④ecoスクール	河川清掃
	11(祝木)	黄色いシートキャンペーン(伊ノ日向店)	横山理事長・横山理事・加納理事 参加
	12~16, 18, 21	小屋の建替え	お風呂小屋の壁張り
	24(水)	スマイル応援事業審査会	横山理事長、横山理事
	20(土), 27(土), 28(日)	古民家再生	室内外かたづけ
9月	10(土)	⑤ecoスクール	昆虫観察と写真撮影、ソーラークッキング
10月	1(土)	田んぼPRO準備	④の準備
	2(日)	④田んぼPRO	稲刈り
	15(土)	田んぼPRO準備	⑤の準備
	16(日)	⑤田んぼPRO	脱穀
	22(土)	ecoスクール準備	海水汲み
	23(日), 30(日)	台風被害の田んぼ	稲刈り、脱穀
11月	12(土)	ecoスクール準備	⑥の準備
	19(土)	⑥ecoスクール	麦畑づくり、麦蒔き
	27(日)	麦播き	スタッフで対応
12月	3(土)	田んぼPRO準備	⑥の準備
	4(日)	⑥田んぼPRO	収穫祭(餅つき)
	17(土)	⑦ecoスクール	海の豊かさを守ろう、塩作り、麦踏み
	大晦日	ピカピカ大作戦	教室棟・管理棟の大掃除
1月	14(土)	ecoスクール準備	⑧の準備
	21(土)	⑧ecoスクール	陸の豊かさを守ろう、イチゴ酵母作り
2月	11(土), 12(日)	雨樋の設置	竈小屋、五右衛門風呂1号・2号部屋
	18(土)	⑨ecoスクール	パン作り、閉校
3月	4(土)	妖精の森整備	竹伐採
	25(土)	春をたのしもう準備	
	26(日)	春をたのしもう	野草観察・調理
4月	4(日), 9(日)	小屋の建替え	お風呂小屋の扉設置

報告事項Ⅱ. 2022年度活動決算報告

2022年度 特定非営利活動に係る活動計算書
(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

科目	金額		備考
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	43,000		8人×5,000、特別:3人×1,000
賛助会員受取会費	5,000	48,000	1人×5,000
2. 受取寄附金			
受取寄附金	184,593		イオン黄色いレシート、ろうきんNPO寄附金、個人寄附 他
ボランティア受入評価益	849,541	1,034,134	
3. 受取助成金等			
受取助成金		1,559,313	子どもゆめ基金、年賀寄付金による社会貢献事業、かどがわスマイル応援事業
4. 事業収益			
自主事業収益		201,400	四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復活プロジェクト、森の学舎使用料
5. その他収益			
雑収入		2,109	旧1号風呂釜売却、預金利息
経常収益計			2,844,956
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
賃金(有償ボランティア)	266,619		四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう
ボランティア評価費用	849,541		各プログラム(宮崎県の最低賃金にて評価)
人件費計	1,116,160		
(2)その他経費			
修繕費	887,195		かまど小屋・1号風呂小屋の建替え、2号風呂小屋
諸謝金	87,000		四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復活プロジェクト
印刷製本費	25,080		ecoスクールチラシ印刷(業者)
広告宣伝費	49,500		春を楽しもう(新聞広告)
旅費交通費	141,755		各プログラム 他事業すべて
通信運搬費	20,138		同上
消耗品費	403,569		同上
損害保険料	27,626		同上
その他経費計	1,641,863		
事業費計		2,758,023	
2. 管理費			
(1)人件費			
賃金(有償ボランティア)	0		
人件費計	0		
(2)その他経費			
Web運営費	14,338		ドメイン・サーバー使用料(3年分)
旅費交通費	8,750		森づくりボランティア協議会の総会・研修の出席 他
通信運搬費	45,371		助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯
消耗品費	98,934		プリンター、文房具 他
諸会費	3,000		みやざき森づくりボランティア協議会
会議費	1,500		総会
研修費	0		
租税公課	6,850		印紙 他
施設管理費	165,300		森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代) 他
雑費	39,307		昨年度子どもゆめ基金助成金減額、小さな森のマルシェ 出店(昨年度未計上)
その他経費計	383,350		
管理費計		383,350	
経常費用計			3,141,373
当期正味財産増減額			△296,417
前期繰越正味財産額			1,746,909
次期繰越正味財産額			1,450,492
			森の学舎修繕費目的積立¥1,000,000含む

各プログラム:「四季をまるごと体験ecoスクール」「春を楽しもう」「森林整備」「森の学舎整備」
ボランティア受入評価益とボランティア評価費用は、宮崎県の最低賃金にて計上している。
管理費のボランティア受入評価益とボランティア評価費用は、計上していない。

2022年度 事業別活動計算書

科目	ecoスクール	春を楽しもう	休耕田復活プロジェクト	小屋建替え	森林整備	森の学舎整備(ピオトープを含む)	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益									
1. 受取会費									
正会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	43,000	43,000
賛助会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	5,000	5,000
2. 受取寄附金									
受取寄附金	--	--	--	--	--	--	--	184,593	184,593
ボランティア受入評価益	84,978	27,296	314,770	282,433	16,570	123,494	849,541	76,075	925,616
3. 受取助成金等									
受取助成金	455,891	138,027	174,000	791,395	--	--	1,559,313	--	1,559,313
4. 事業収益									
自主事業収益	145,000	12,000	26,400	--	--	--	183,400	18,000	201,400
5. その他収益									
雑収入	--	--	--	--	--	--	--	2,109	2,109
経常収益計	685,869	177,323	515,170	1,073,828	16,570	123,494	2,592,254	328,777	2,921,031
II 経常費用									
(1)人件費									
賃金	246,619	20,000	--	--	--	--	266,619	--	266,619
ボランティア評価費用	84,978	27,296	314,770	282,433	16,570	123,494	849,541	76,075	925,616
人件費計	331,597	47,296	314,770	282,433	16,570	123,494	1,116,160	76,075	1,192,235
(2)その他経費									
修繕費	--	--	--	871,000	--	16,195	887,195	0	887,195
諸謝金	42,000	10,000	35,000	--	--	--	87,000	--	87,000
印刷製本費	25,080	--	--	--	--	--	25,080	--	25,080
Web運営費	--	--	--	--	--	--	--	14,338	14,338
旅費交通費	93,880	11,875	36,000	--	--	--	141,755	8,750	150,505
通信運搬費	12,682	4,766	--	2,690	--	--	20,138	45,371	65,509
消耗品費	154,640	44,632	118,327	53,868	0	32,102	403,569	98,934	502,503
諸会費	--	--	--	--	--	--	--	3,000	3,000
会議費	--	--	--	--	--	--	--	1,500	1,500
研修費	--	--	--	--	--	--	--	0	0
損害保険料	16,666	1,600	9,360	--	--	--	27,626	0	27,626
租税公課	--	--	--	--	--	--	--	6,850	6,850
施設管理費	--	--	--	--	--	--	--	165,300	165,300
広告宣伝費	--	49,500	--	--	--	--	49,500	0	49,500
雑費	--	--	--	--	--	--	--	39,307	39,307
その他経費計	344,948	122,373	198,687	927,558	0	48,297	1,641,863	383,350	2,025,213
経常費用計	676,545	169,669	513,457	1,209,991	16,570	171,791	2,758,023	459,425	3,217,448
当期経常増減額	9,324	7,654	1,713	△ 136,163	0	△ 48,297	△ 165,769	△ 130,648	△ 296,417

※ボランティア受入評価益とボランティア評価費用は、宮崎県の最低賃金にて計上している。



休耕田復活プロジェクト

《参考》

2022年度 特定非営利活動に係る活動計画書
(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

科目	金額		備考
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	58,000		11人×5,000、特別会員:3人×1,000
賛助会員受取会費	11,000	69,000	2人×5,000、特別会員:1人×1,000
2. 受取寄附金			
受取寄附金	160,000		イオン黄色いシート、ろうきんNPO寄附金、個人寄附 他
ボランティア受入評価益	--	160,000	
3. 受取助成金等			
受取助成金		1,606,000	子どもゆめ基金、年賀寄付金による社会貢献事業、門川町がんばる地域応援事業
4. 事業収益			
自主事業収益		168,000	各プログラム参加費、森の学舎使用料
5. その他収益			
雑収入		12	預金利息 他
経常収益計			2,003,012
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
賃金	273,000		各プログラム
ボランティア評価費用	--		
人件費計	273,000		
(2)その他経費			
修繕費	10,000		2号五右衛門風呂小屋
諸謝金	945,000		各プログラム、休耕田復活プロジェクト、小屋建替え
印刷製本費	30,000		ecoスクールチラシ印刷(業者)
広告宣伝費	50,000		春を楽しもう(新聞広告)
旅費交通費	158,300		各プログラム 他事業すべて
通信運搬費	47,100		同 上
消耗品費	309,000		同 上
損害保険料	29,100		同 上
その他経費計	1,578,500		
事業費計		1,851,500	
2. 管理費			
(1)人件費			
賃金	0		
人件費計	0		
(2)その他経費			
修繕費	5,000		バッテリー
Webページ運営費	15,000		ドメイン・サーバー使用料(3年分)
旅費交通費	10,000		森づくりボランティア協議会の総会・研修の出席 他
通信運搬費	39,000		助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯
消耗品費	10,000		文房具 他
諸会費	3,000		みやざき森づくりボランティア協議会
会議費	3,000		総会、理事会
研修費	5,000		各種研修、会員のプログラム参加費への充当
租税公課	1,500		印紙、印鑑証明 他
施設管理費	165,000		森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代) 他
雑費	355,000		古民家屋調査費用は、建設仮勘定で資産計上とする
その他経費計	611,500		
管理費計		611,500	
経常費用計			2,463,000
当期正味財産増減額			△ 459,988
前期繰越正味財産額			1,746,909
次期繰越正味財産額			1,286,921
			森の学舎修繕費目的積立¥1,000,000含む

各プログラムとは、「四季をまるごと体験ecoスクール」「春を楽しもう」
小屋建替えとは、「釜戸小屋と五右衛門風呂小屋」

特定非営利活動に係る貸借対照表（2023年3月31日現在）

特定非営利活動法人 子どもの森

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	24,965		
普通預金	787,183		
未収金	593,918		
前払金	17,713		
流動資産合計		1,423,779	
2 固定資産			
建設仮	379,500		
備品	2,085,000		
減価償却累計額	△2,084,997	3	
固定資産合計		379,503	
資産合計			1,803,282
II 負債の部			
1 流動負債			
前受金	350,000		
流動負債合計		350,000	
負債合計			350,000
III 正味財産の部			
基本金	1,746,909		
当期正味財産増加額(減少額)	△293,627		
正味財産合計			1,453,282
負債及び正味財産合計			1,803,282

2022年度 特定非営利活動に係る財産目録（2023年3月31日現在）

特定非営利活動法人 子どもの森

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	現金手元有高	22,175	
普通預金	宮崎太陽銀行門川支店	390,119	
普通預金	九州ろうきん延岡支店	393,681	
普通預金	ゆうちょ	3,383	
未収金	子どもゆめ基金	593,918	
前払金	事務局電話代（金子幸一）	17,713	
流動資産合計			1,420,989
2 固定資産			
建設仮	古民家再生	379,500	
機械及び装置	チャパ-シュレッダ-（新ガ`イ7CSE50-W）	253,050	
	チャパ-シュレッダ-（大橋GS121GB）	1,330,350	
	耕うん機（HONDAレ`アタ）	102,600	
	簡易炭窯（テサT105型）	399,000	
減価償却累計額		△2,084,997	3
固定資産合計			379,503
資産合計			1,800,492
II 負債の部			
1 流動負債			
前受金	九州ろうきんNPO助成	350,000	
流動負債合計		350,000	
負債合計			350,000
正味財産（注）			1,450,492

（注）正味財産は「資産合計」より「負債合計」を減じた金額を記載する。
これが登記すべき「資産の総額」である。

上記財産目録に相違ない。

特定非営利活動法人 子どもの森

監査

佐藤 伸光



報告事項Ⅲ. 監査報告

監査報告書

2022年4月1日から2023年3月31日までの理事の職務の執行に関して、本監査報告書を作成し、以下の通り報告します。

監査の結果

- この法人の会計の方法及びその結果は、相当であると認めます。
- 財産目録は、この法人の財産の状況その他の事情に照らし指摘すべき事項はありません。
- 貸借対照表は、この法人の財産の状況その他の事情に照らし指摘すべき事項はありません。
- 活動計算書は、法令及び定款に従い、この法人の状況を正しく示していると認めます。

2023年4月 8 日

特定非営利活動法人 子どもの森

監事 佐藤 伸光



2号風呂小屋建替え



古民家再生

議案 I. 2023年度活動方針(案)

1. 農林漁業などの産業体験や里山等の自然体験交流事業

5 (1) 子どもと保護者の環境教室（四季をまるごと体験 eco スクール）

今年度も、地域の小学生（3年生以上）及び保護者に対して、パン作りによる食と環境を切り口に、同一の参加者が、年間（四季）を通して、四季折々の自然環境を遊びや観察等から学び、麦栽培等の農業体験、そして農業体験を通して自分たちで作った食材料からパン作りを経験します。輸入に頼らなくても食が可能であることを実感し、食べ残しを極力少なくすることや食品の輸入による過大なエネルギーを減少させることで、地球環境への負荷を少なくした生活を実践してもらうための気づきを促します。他に、自然環境を遊びや観察等の原体験を通して、中山間地域である里山の自然環境の大切さと保全の必要性を学習するプログラムを提供します。

- ・参加者（予定）：23人（県北地域の小学生3年生から6年生15人と保護者8人）
- ・場 所：森の学舎
- ・助 成：子どもゆめ基金
- ・外 部 講 師：新開孝氏（昆虫観察と昆虫写真撮影）※昆虫写真家

主テーマ：輸入に頼っている小麦を地産することで、輸送に係るエネルギーを減らすことができることを学ぶ。

第1回 5/21 (日)	開校式	・学校名や学年、活動に参加した目的などの自己紹介。 ・初対面である参加者同士が早く仲良くなるためのネイチャーゲーム実施。
	麦刈り	・前年度の「四季をまるごと体験 eco スクール」で種まきをして育った麦を手鎌で刈りとり、土に触れる機会も体験する。 ・刈りとった麦を乾燥させるための昔ながらの稲架かけを体験する。

主テーマ：ごみゼロを目指すライフスタイル「zero waste life（ゼロ・ウェイスト・ライフ）」の一環として、日々の暮らしのなかでコンポストによる生ごみの堆肥化を実践する。

第2回 5/28 (日)	麦畑用堆肥づくり（ダンボールコンポスト）	・第6回におこなう麦畑作りで使用する堆肥作り。（ダンボールにピートモス等の基材を入れ、ゴミの減量化と堆肥としての食べ物の循環、家庭での堆肥の作り方管理を学ぶ。）
	脱穀	・第1回で刈りとった麦を足踏む式脱穀機で、麦を穂から分離する。
	風選	・脱穀した麦を、機械を使わず手で籾擦りをする。 ・昔ながらの農機具である唐箕を使って、穀物の実収穫する。

主なテーマ：多くの種の命の大切さを学び豊かな自然環境が、動植物の食物連鎖や生態系に必要なものであることを学ぶ。

第3回 7/30 (日)	河川ゴミ拾い	・川の美化活動として五十鈴川岸のゴミ拾いをする。
	川あそび	・川の音や匂い風を心体で感じ取るために、水辺に特化したネイチャーゲームを実施する。参加者を3グループに分けて、それぞれのグループに指導者がつく。各グループが、異なる川あそび（笹舟流し・箱メガネで川を覗く・川虫を探す）を時間単位でローテーションする。
	川の生き物調査	・川虫や箱メガネを使ってエビや魚を網で捕る。川岸に捕れる生き物のパネルを用意して、捕ったエビや魚、川虫の名前を確認する。

主なテーマ：身近な自然について興味・関心を持ってもらうために、昆虫を観察し昆虫に触れ、名前や生態を学習する。太陽熱利用は、家庭でガス代・電気代・石油の節約に役立つことをソーラークッキングで実感する。

第4回 9/10 (日)	森の学舎グラウンドと周辺の土手や田畑での昆虫観察と写真撮影	・昆虫写真家の新開孝さんから昆虫の名前や生態等を聞きながら昆虫採集（当プログラムでは写真を撮ったら直ぐに自然に戻す）や昆虫観察（必要に応じては昆虫を詳しく観察できるレンズ付きガラス容器に入れ）をする。
	ソーラークッキング	・太陽光を集めると、高温になること（目玉焼きで実験）を知り、CO ₂ の発生が0%にできることに気づく。（CO ₂ の発生は、地球の温暖化防止

		には、重要なことを講話し、省エネの生活をするように意識させる。)
	※雨天曇り時 樹木調査	・お地蔵さんの森（当会で整備保全している森）に自生している樹木の特徴や名前を覚える。

主テーマ：植物（麦）が、季節を永遠に循環（前世代から引き継ぎ次世代に引き継いで行く）していることを実感する。

第5回 11/12 (日)	麦畑の耕うん	・ 鍬や土起こし器を使って人力で畑の草取りをおこなう。 ・ ミニ耕運機を使って耕うん（ダンボールコンポストの堆肥も一緒に）をする。
	麦蒔き	・ 麦種を蒔き土を被せ、土に触れる機会も体験する。
	※雨天時 ドングリ工作	・ 木枝、葉、ドングリ等で工作をして、身近にある自然物で楽しく遊べることを体験する。

5 主テーマ：沿岸部の海水がきれいだからこそ、パンの副材料の塩を海水から作ることができることを知る。

第6回 12/17 (日)	海の豊かさを 守ろう	・ 海の汚染の8割は陸地からの影響であり、二酸化炭素や農業及び工業排水、未処理の下水や油、栄養塩類、堆積物、海洋ごみなどが陸地から海に流れ込み、悪影響を与えていることを学習する。
	簡易釜戸設置	・ ブロックを使って4カ所の釜戸の土台をグラウンドに作り、その上に簡易釜戸を設置。
	塩作り	・ 鍋に海水を入れ簡易釜戸で沸かして水分を蒸発させ、塩をコーヒーフィルタを使って採取。 ・ 塩づくりの副産物であるにがり液も採取。 採取した塩をフライパンで炒めて乾燥。
	麦踏み	・ 第6回で蒔いた麦芽が強い麦に育つための麦踏を行う。

主テーマ：土地ごとに自然に存在する酵母、穀物や果実などについている酵母菌を培養する。

第7回 2024 1/21 (日)	陸の豊かさ も守ろう	・ 陸地の生物多様性があるから酵母菌が多種に存在することを切り口とし、生態系の保護と回復、砂漠化への対策と森林の保護などを学習する。
	酵母作り	・ 食品瓶にイチゴと水・砂糖を詰め、パンで必要となる酵母を仕込む。（食品瓶は自宅に持ち帰り自宅で酵母を育てる）
	麦踏み	・ 第6回で蒔いた麦芽が強い麦に育つための麦踏を行う。
	小麦挽き	・ 第2回で脱穀した麦を石臼で挽いて小麦粉にする。
	掃除	・ 活動のかたづけとして、石臼での麦挽きで汚れた室内と自分の使った石臼の掃除をする。

10 主テーマ：自分たちで作り育てた麦や塩等を使ってパンを焼き、原材料を輸入等遠い場所から持っていないことで、移動にかかるエネルギーを減らすことができる具体的な方法があることを知る。

第8回 2/18 (日)	バター作り	・ 生クリームと牛乳を攪拌して、パン生地に練りこむバターを作る。
	パン作り	・ 1次発酵を済ませて、想いおもいの形にパン形成。 ・ 第6回で作った塩と、第7回で挽いた小麦粉と作ったバターでパン生地作り。
	パン焼き、 感想文	・ パン焼きする順番に2次発酵して釜でパン焼き。 ・ パン焼きの順番まで、感想文書き。 ・ 焼いたパンを試食。
	閉校式	・ 修了証の授与。

15 (2) 休耕田復活プロジェクト

一昨年（2021）度に復活した休耕田で、継続して米作り活動をしていきます。

耕作放棄地を復活させて里山の自然景観を守り、そして、大切なものがたくさんあって存在する魅力や価値を後世に繋いでいきたい、松瀬地区の休耕田を復活させ無農薬で無機械による米作り体験の場とします。

20 田んぼを復活させ無農薬で無機械による米作り体験の場として、地元農家の方（新田さん）の指導助言を仰ぎながら活動を進めて行きます。一般参加者を募って、田植え、年3回の草取り、

稲刈り、脱穀、そして餅つきをして食べるまでの節目の作業を体験実施して行きます。

田起しは地元農家の方をお願いできますが、田起こし前の用水路の整備と田んぼの草刈り、田んぼの周りの竹伐採やもち米の幼苗作り、稲育成中での稗（ひえ）取り等の一連の田んぼ作業を実施します。

- 5 また、田んぼでの環境学習のため広めの畔が必要となるため、耕うん・田起し後に畔の拡張も行います。

- ・参加者（予定）：25人（県北地域の親子）
- ・場 所：子どもの森田んぼ
- ・助 成：九州ろうきんNPO助成

10

日付	内容	予定参加者
5月（GW）	用水と畔づくり等の田んぼ整備	会員
5月（GW後）	耕うん、田起こし、代掻き	会員、地元協力農家さん
6月3日	田植えの準備	ボランティア、会員
4日	田植え	一般参加者、ボランティア、会員
6月25日	環境学習と草取り（3回）	一般参加者、ボランティア、会員
7月9日		
23日		
10月14日	稲刈りの準備	ボランティア、会員
15日	稲刈り	一般参加者、ボランティア、会員
28日	脱穀の準備	ボランティア、会員
29日	脱穀	一般参加者、ボランティア、会員
12月2日	ボランティアによる収穫祭の準備	ボランティア、会員
3日	収穫祭	一般参加者、ボランティア、会員

一般参加者が参加する活動は午前中（9：00～12：00）とします。ただし、脱穀（10月29日）は作業時間を多く必要とするため、終了予定を15時にしたいと思います。

- 15 稲刈り後の田んぼ保全のためレンゲ畑とします。レンゲを使っての活動を理事会で検討したいと思います。

収穫した米は、参加者とボランティアで分配、古民家再生でのクラウドファンディングの返礼品としたいと思います。

20 (3) 地域コミュニティによる耕作放棄地の復元

私たちが食料の生産、共有、消費の方法を考え直す時が来ています。農林水産業は適切に機能すれば、すべての人に栄養豊富な食料を提供し、農村開発を支え環境を守ることができます。それらを、一般参加者や地域住民と一緒にあって耕作放棄された田畑を活用した米作りや野菜栽培などを通して考え、地球環境に負荷をかけないで自分たちにできる取組への気づきを促し里山や中山間地域の自然景観を復元し、その魅力を発信させていきます。

25

休耕田復活プロジェクトの松瀬地区の田んぼは、国道の拡張工事で近い将来、道路の一部になることが決まっています。その時のために、松瀬地区の田んぼの代替え地とすることも兼ねています。

- 30
- ・場 所：北郷黒木地区の耕作放棄地
 - ・助成（計画）：連合愛のキャンパ

連合愛のキャンパを助成が決定することを前提としています。耕作放棄地を田畑に戻すには、人手だけでは不可能と思われる機械による作業も必要となってきます。そこで、ミニショベルカーの活用が条件となります。ミニショベルカーの購入費用を連合愛のキャンパへ申請しています。

35

連合愛のキャンパの助成が受けられなかったら、活動規模を小さくして実施しなければならないと思います。ですので、現時点では具体的な活動詳細を示すことができませんが、少なくとも今年（2023年）度は、草刈りは実施したいと思います。

5 耕作放棄された田んぼは、丈の高い雑草が密生し、小さな木もまばらに生え、かつての田んぼの面影などまったく感じられない荒地となっています。まずは生い茂るセイタカアワダチソウなどの雑草を刈り払うところから始め、低木を切り倒して伐根もしなければなりません。草刈り機やチェーンソー等を使って、草刈りや低木の切り倒しを進めていきます。

10 大量の雑草を土にすき込むのは、かなり骨の折れる作業であるので重機を使用する必要あると思われます。土を深くから掘り返すと土中の環境が急激に変わって生態系が壊れてしまうので、ただ耕作放棄地を復活させるのではなく多様な生物が生息できる田んぼを取り戻すことが本来の目的でもあるため生態系が崩れてしまつては意味がないので、環境への影響が小さいマイクロシエベルによるすき込み作業を行います。

15 復活させた田んぼで環境学習などを実施するため、米の作付面の周りにある畔を大きめに復元します。この作業も、マイクロシエベルを活用することになります。

復活する耕作放棄地には朽ちて崩壊した小屋があります。その小屋を撤去させるのにも、マイクロシエベルが活用できます。

2. 中山間地の荒廃した里山の環境保全再生事業

20

(1) 妖精の森

2009年から続けている森の学舎裏の放置されている竹林の一部を落葉樹の林に変えて行く活動は、地権者と正式に山林使用協定を結べない事情があるので、他活動で必要となる竹の伐採にとどめます。また、新たに生えてくる竹の除去は続けて行きます。

25

(2) お地蔵さんの森（森林と水辺の体験型環境学習の森づくり活動）

手入れが行われず放置されている里山と、その里山と隣接している五十鈴川支流のオモボリ谷と菅の谷の合流する沢（松瀬川と称す）を子供たちが入り遊ぶことができる森林づくりを2019年度から実施しています。

30 整備した里山と松瀬川、そして森の学舎を一体的に活用し、子どもやその保護者を対象とした森林の動植物にやさしい自然環境と水源かん養や災害の防止など森林の公益的機能を知るための体験型環境学習を実施するためのフィールドとして活用します。

また、作業スペースに活用できる廃道と樹木名プレートを探索する場所の草刈りを実施します。

3. 地域の自然環境などを理解してもらうための啓発活動

35

(1) 春の野草を活用した里山体験（春を楽しもう）

春になって野草の芽吹きに触れることで自然に対して興味・関心を高め、野草の名前を覚え食することで自然の恵みが身近なところにあることを確認します。この活動を通して自然環境を大切に思い守る意識の認識してもらいます。

40

・開 催 月：2024/3/24（日）

・参加者（予定）：子ども15人、保護者10人（子どもが過半数を超えること）

・場 所：森の学舎と周辺

45 ・助 成：子どもゆめ基金（申請予定）

・外 部 講 師：成迫平五郎氏（野草観察）

① 野草観察：指導者やスタッフと一緒に森の学舎と周辺を散策し、生息する野草などの説明を受ける。野草の名前や特徴を覚えることで、地域の身近な自然に対する興味・関心を高める。スタッフと参加者で知識を共有するだけでなく、観察中に話しかけながら交流を図り、屋外で

50

の活動となるため指導者の説明が十分に伝わるよう配慮します。

- ② 参加者で昼食作り：食べることができる野草を食べる分だけ摘んで調理する。野草を食べることで自然の恵みへの感謝の気持ちを認識する。調理それぞれに、スタッフを配置しスムーズな調理の流れに配慮します。

5

参加者の五感を使った活動とするために、受身の受講とせず、スタッフも一緒に調理をして交流を図り印象を強く残すように配慮します。

4. 地場産業の振興、街づくり、人づくり

10

(1) 古民家再生

地域のサードプレイス（環境学習の教室、日常的に大人や子どもが集まる処、防災時の補助的な避難所、地域の農産物場販売所など多様な利用方法があると思われます）として、美郷町北郷黒木にある築116年の古民家を再生したいと思います。

15

この古民家は、柱や床などがシロアリ被害によって、家全体が歪んでいるので業者による家屋の躯体修復作業を施して、躯体修復が終わったらワークショップで床や壁などの施工を進めて行きます。家屋の躯体修復作業にかかる費用は、業者による躯体改修概算見積後に、クラウドファンディングにて資金調達をしていきます。

20

古民家再生の予算案については、業者による見積りが終わり、クラウドファンディングをスタートする時点で、計画を立案して会員に提示します。

※サードプレイスとは、仕事に関わる「職場」やプライベートな「家庭」とは異なる3つ目の居場所を指す言葉です。ただし、それは単に居場所があればサードプレイスになるわけではありません。インフォーマルな公共の空間で、上下関係のない人々が自由に会話を交わすことができるという環境は、人々に自尊心を取り戻させたり精神的なゆとりを与えたりするのです。サードプレイスの代表例としては、ドイツの居酒屋やイタリアの食堂などであり、人々のコミュニケーション欲を満たす場所として機能しています。コミュニティーのような義務や権利が存在しないのもサードプレイスの特徴です。

5. 市民活動の活性化に関わる企画、コーディネート事業

25

地域の課題に対して何かの役に立ちたいと思い、地域活動に参画する意向のある人は増えてきています。そうした動きに対して行政も、地域の活性化、雇用の確保、行政サービスの補完等の観点で関心を持っています。しかし、意欲のある人や団体でも、具体的な始め方、仲間や協力者の見つけ方、必要な知識やスキルの身に付け方等、いくつかのハードルの存在が想定されます。従って、それらを克服し、参加意欲を実際の行動に結び付けていけるような支援の仕組みを地域に構築することの必要性があります。市民活動の活性化に関わる企画やコーディネート等、何らか携わることができればと考えています。

30

6. 活動の情報発信・啓発のための事業

35

活動を告知することで活動の参加者を募集し、活動の内容を情報発信することで子どもの森の活動への理解を通して、自然環境の大切さ、地域を良くするための協働への参画を促していきます。

(1) Webサイトの運営

40

子どもの森の活動と自然環境啓発等を、Webページにて発信していきます。また、Webページでは発信しづらい細かい情報は、facebookとinstagramで発信していきます。

(2) 機関紙の発行

子どもの森の前年度活動と自然環境啓発等を、機関紙「子どもの森通信20号」を発行するこ

とで情報発信をします。

(3) 事業案内チラシの作成

5 宮崎県や関係行政機関等の後援を依頼して、それぞれの事業を開催する2ヶ月前までに、新聞社等へ参加者募集の記事依頼と、図書館や公民館等の公共機関へのチラシ配布を行います。

7. その他目的を達成するために必要な事業

(1) ビオトープ

10 ビオトープは、ミニ田んぼ・水路・池とつながった一連の水辺環境で、森の学舎隣の地区集会場にある水タンクからオーバーフローしている水をホースで引いています（地区の集会場の水タンクには、谷沢の水をホースで注いでいる）。ビオトープの活用にあたり必要な改修改善を行なっていきます。水辺に生息する草や水生生物は、人工的に持ってこず自然の復元力に委ねます。

15 四季をまるごと体験ecoスクールで、水辺の生きもの観察や麦作りを行い自然環境の観察等を行います。

ビオトープの様子は、Webページ・Facebook・instagram、機関誌で紹介していきます。

(2) 活動拠点「森の学舎」の活用と整備

20 2006年11月に、公募により門川町から譲与を受けた旧西門川小学校松瀬分校は、2008年度に、日本財団と連合愛のキャンパからの助成金を受け、会員その他ボランティアによって修繕を進めてきました。また、ボーイスカウト等の団体を含めた一般開放、森林や環境等の図書や児童書・絵本を整備して環境文庫の設置などの整備を行ってきました。そして、2009年度は、セブンイレブンみどりの基金と門川町まちづくりプレイヤー支援、連合愛のキャンパからの助成を受け、五右衛門風呂小屋と釜戸小屋の製作と、薪ストーブの設置、環境関連図書の購入を進めてきました。

25 行政が絡んでいない民間団体での廃校活用は他に例がなく、森の学舎は廃校になった学校の先駆的な活用例として注目されています。森の学舎と周辺地域との関係も視野に入れ、環境問題を切り口とした地域コミュニティとしての役割など、廃校の更なる活用も目指していかなくてはなりません。

30 2010年度で、急ぎ必要な森の学舎の整備は終わったと思われます。これからは、どのような整備が必要かを検討しながらの整備を進めていきます。そのための資金として、特別積立金の設定をしています。森の学舎の開放と森の学舎で行なう環境学習の依頼があれば受入をしていきます。

35 昨年（2022年）度は、老朽化した竈小屋と五右衛門風呂小屋を、日本郵便より「年賀寄付金による社会貢献事業助成」を受けて建て替えができました。また、一昨年（2021年）度から手掛けていた五右衛門風呂2号小屋の建て替えも終了しました。

環境関連図書（環境文庫）の設置をしてから、15年が経過しています。その間、増えた図書の整備を行っていません。今年度は、蔵書している図書の見直し整備を行えればと思います。

初夏と夏と秋にグラウンドと周辺の草刈りを実施します。

40

(3) 子どもの森が加盟する団体

45 今年（2023年）度も引き続き「みやざき森づくりボランティア協議会」に、団体会員として加盟します。同協議会での総会や研修会への参加をすることで、同じ森づくりや環境問題に取り組んでいる団体との交流ができます。また、同協議会が開催する研修会では、森づくり活動への考え方や森林作業の学習等を学べます。宮崎県内の森づくりを実施している団体の相互協力と交流、森づくりの研修が、本協議会の活動の中心となっています。可能な限り協議会が開催する総会や研修への参加や協力を行っていきます。

今年（2023年）度に計画されている計画等は下記のとおりです。

50 ① 樹木接ぎ木の研修（7月16日）

② シイタケ原木の本伏せ（8月20日）

③ 緊急救命方法の研修（10月22日）

（4）黄色いレシートキャンペーン

- 5 黄色いレシートキャンペーン投函ボックスは、昨年（2022年）度から、イオングループで1店舗のみの登録となったため「イオン日向店」にお願いしています。黄色いレシート発行の日の11日が土日または、祝日となる日を選んで、イオン日向店においてのキャンペーン協力に参加したいと思います。

10 8. 助成について

今年度の活動への助成金は下表のとおりです。

助成名	助成元	助成事業	助成額	備考
子どもゆめ基金	国立青少年教育振興機構	四季をまるごと体験e c oスクール	617千円（申請） （確定）563千円	
		春を楽しもう	130千円（申請予定）	2次募集で申請
九州ろうきんN PO助成	九州労働金庫	休耕田復活プロジェクト	500千円（申請） （確定）350千円	昨年（2022年）度に受け取り済み
連合愛のキャンパ	日本労働組合総連合会	地域コミュニティによる耕作放棄地の復元	400千円（申請） ※8月に採否決定	3年間で計121万円を継続申請する予定

9. 次年（2024年）度以降の活動

15

これまでのプログラム（自然体験活動）を継続実施することとしますが、川をフィールドとする活動は7月末から8月初めになります。川をフィールドにする活動が複数あると台風による川の増水や雨による延期に対応できないため、次年度以降も一つに絞ります。今年度は、新型コロナ後の社会情勢が不明確なため「川をたのしく親しまう」を未開催とします。四季をまるごと体験e c oスクールのイカダを使わない河川清掃とします。

20

森づくりは、「お地蔵さんの森」は、樹木伐採や沢への昇降道の整備がー昨年（2021年）度に終了しているので、自然体験活動でのフィールドとしての活動とメンテナンス的整備を実施して行きます。「妖精の森」は、生えてくる竹の伐採を実施し、「子どもの森1号地」と「GOCANの森」は、経過観察をして行きます。

25

他に、将来の自然体験活動として、ネイチャー工作の一環となるコケ玉・樹木カレンダー・門松づくり、つる工作等の特色ある計画を練っていきます。

古民家再生は、資金が揃えば、業者による家屋修復は実施できると思いますが、ワークショップによる室内再生を今年（2023年）度中に完成させることは難しいと思われるので、次年度も引き続きおこなうことになると思います。

30

地域コミュニティによる耕作放棄地の復元は、実のなる樹木を植樹して、体験農園として果樹や野菜を育て収穫することも計画したいと思います。将来的には、収穫した果実を加工して地域活性化となる地域独自の6次産業を実現させたいと思います。耕運機やマイクロシベルで田起こしをして、田植え時期に地域住民と一般参加者を募って田植えをおこない無肥料無農薬で農業機械を一切使わずに米を育てます。田んぼに生えるコナギ等の雑草除去や手鎌による稲刈りと収穫祭もおこないます。

35

議案Ⅱ. 2023年度活動計画書(案)

2023年度 特定非営利活動に係る活動計画書
(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

科目	金額		備考
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	68,000		13人×5,000、特別会員:3人×1,000
賛助会員受取会費	11,000	79,000	2人×5,000、特別会員:1人×1,000
2. 受取寄附金			
受取寄附金	160,000		イオン黄色いシート、ろうきんNPO寄附金、個人寄附 他
ボランティア受入評価益	--	160,000	
3. 受取助成金等			
受取助成金		1,433,000	子どもゆめ基金、九州ろうきんNPO助成、連合愛のキャンパ
4. 事業収益			
自主事業収益		173,000	各プログラム参加費、森の学舎使用料
5. その他収益			
雑収入		1,200,012	借入※貸借対照表に計上、預金利息 他
経常収益計		3,045,012	
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
賃金	354,000		各プログラム
ボランティア評価費用	--		
人件費計	354,000		
(2)その他経費			
備品	1,210,000		ミニショベルカー
修繕費	10,000		2号五右衛門風呂小屋
諸謝金	58,000		各プログラム、休耕田復活プロジェクト、小屋建替え
印刷製本費	30,000		ecoスクールチラシ印刷(業者)
広告宣伝費	36,000		春を楽しもう
旅費交通費	177,175		各プログラム 他事業すべて
通信運搬費	19,220		同上
消耗品費	468,929		同上
損害保険料/補償費	60,420		同上 ミニショベルカーメンテナンス
雑費	410,000		借入の返済、支払利息※決算において科目追加 他
その他経費計	2,479,744		
事業費計		2,833,744	
2. 管理費			
(1)人件費			
賃金	0		
人件費計	0		
(2)その他経費			
旅費交通費	10,000		森づくりボランティア協議会の総会・研修の出席 他
通信運搬費	39,000		助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯
消耗品費	10,000		文房具 他
諸会費	3,000		みやざき森づくりボランティア協議会
会議費	3,000		総会、理事会
研修費	5,000		各種研修、会員のプログラム参加費への充当
租税公課	1,500		印紙、印鑑証明 他
施設管理費	175,000		森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代) 他
雑費	0		
その他経費計	246,500		
管理費計		246,500	
経常費用計		3,080,244	
当期正味財産増減額			△ 35,232
前期繰越正味財産額			1,286,921
次期繰越正味財産額			1,251,689

各プログラムとは、「四季をまるごと体験ecoスクール」「春を楽しもう」

古民家屋調査費用(昨年度計上379,500)は、建設仮勘定で資産計上としている

- 5 ※会費 正会員:5,000円(ただし特別正会員は1,000円) 賛助会員:5,000円(ただし特別賛助会員は1,000円)
特別正会員とは、社会に出る前の大学生や専門学校生と、同一世帯で2人以降の正会員で、総会での議決権など、通常の正会員と同じ権利を有します。特別賛助会員とは、同一世帯で2人以降の賛助会員です。

※目的積立:将来の大規模な森の学舎修繕に備えた積立をおこないます。現在、雨漏りがあるためシートで応急処置をしていますが、修繕費が認められる助成金等にて雨漏り修繕をしたいと考えています。その時に、目的積立を取り崩して自己資金部分に充当させます。

- 10 ※20名以上の参加者がないとボランティア保険の対象とならないため、各プログラム(四季をまるごとecoスクール、春を楽しもう、田んぼ復活プロジェクト)以外の活動への参加での事故やケガについては自己責任でお願いします。(ご自身の加入している損害保険での対応をお願いします)

※他に、古民家再生に係る収支が発生する場合には、補助科目(活動名)を増やして会計処理していきます。

議案Ⅲ. 役員改選(案)

役職	氏名	就任期間	報酬
理事	横山 謙一	2023年4月1日～2025年3月31日 (令和5年) (令和7年)	なし
	鵜戸 隆司		
	井澤 光一		
	加納 七五三		
	横山 純子		
	江口 須美代		
監事	佐藤 伸光	※2023年5月20日～2025年5月19日	

《参考》

5

2023度 事業別活動計画書

科目	四季をまるごと体験ecoスクール	春を楽しもう	休耕田復活プロジェクト	地域コミュニティによる耕作放棄地の復元	森林整備	森の学舎整備(ビオトープを含む)	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益									
1. 受取会費									
正会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	68,000	68,000
賛助会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	11,000	11,000
2. 受取寄附金									
受取寄附金	--	--	--	--	--	--	--	160,000	160,000
3. 受取助成金等									
受取助成金	563,000	120,000	350,000	400,000	--	--	1,433,000	--	1,433,000
4. 事業収益									
自主事業収益	115,000	18,000	30,000	--	--	--	163,000	10,000	173,000
5. その他収益									
雑収入	--	--	--	1,200,000	--	--	1,200,000	12	1,200,012
経常収益計	678,000	138,000	380,000	1,600,000	0	0	2,796,000	249,012	3,045,012
II 経常費用									
(1)人件費									
賃金	266,000	20,000	68,000	--	--	--	354,000	0	354,000
人件費計	266,000	20,000	68,000	0	0	0	354,000	0	354,000
(2)その他経費									
備品	--	--	--	1,210,000	--	--	1,210,000	--	1,210,000
修繕費	--	--	--	--	--	10,000	10,000	--	10,000
諸謝金	25,000	10,000	23,000	--	--	--	58,000	--	58,000
印刷製本費	30,000	--	--	--	--	--	30,000	--	30,000
広告宣伝費	0	36,000	--	--	--	--	36,000	--	36,000
旅費交通費	130,075	9,900	37,200	--	--	--	177,175	10,000	187,175
通信運搬費	18,850	370	--	--	--	--	19,220	39,000	58,220
消耗品費	188,525	50,100	215,304	5,000	5,000	5,000	468,929	10,000	478,929
諸会費	--	--	--	--	--	--	--	3,000	3,000
会議費	--	--	--	--	--	--	--	3,000	3,000
研修費	--	--	--	--	--	--	--	5,000	5,000
損害保険料/補償費	9,920	2,000	8,500	40,000	0	0	60,420	--	60,420
租税公課	--	--	--	--	--	--	--	1,500	1,500
施設管理費	--	--	--	--	--	--	--	175,000	175,000
雑費	--	--	--	410,000	--	--	410,000	0	410,000
その他経費計	402,370	108,370	284,004	1,665,000	5,000	15,000	2,479,744	246,500	2,726,244
経常費用計	668,370	128,370	352,004	1,665,000	5,000	15,000	2,833,744	246,500	3,080,244
当期経常増減額	9,630	9,630	27,996	△ 65,000	△ 5,000	△ 15,000	△ 37,744	2,512	△ 35,232

※ボランティア受入評価益とボランティア評価費用については、活動計画書には反映させませんが活動計算書(決算報告)では計上させます。



事務局/森の学舎：宮崎県東臼杵郡門川町大字川内字イカダ場 3412 番地 1

TEL 0982-63-0009 携帯：080-2696-5180

<https://kodomonomori.info>

info20@kodomonomori.info

facebook <https://www.facebook.com/npo.kodomonomori>

Instagram <https://www.instagram.com/kodomonomori.2003npo>

協働創出市サイト <http://dp25242621.lolipop.jp/kyoudou>